

第3回区議会定例会での主な議論について

大項目	小項目	区議会議員からの質問要旨
		◆「気候非常事態宣言」に基づく今後の区の対応について
行動変容	行動変容	気候変動問題に対し区はどのように取り組む考えか。区民の行動変容を促すこと、国に対しては、生産者としての企業責任を求め、企業の行動変容へ繋げることも必要となる。区の考えを聞く。
		◆気候変動と区の温暖化防止対策について
プラスチックごみ問題	削減・回収	プラ新法では、使用済みプラスチック回収・リサイクルを自治体の役割とする内容だが発生抑制という視点が欠かせない。同時に使用済みプラスチック回収のあり方を再検討すべきだ。区の対応について伺う。
		◆プラスチックごみゼロを目指す分別回収について
プラスチックごみ問題	回収	プラスチックごみを減らす啓発や取り組みを強め、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律に対応し、プラスチックを分別回収すべきではないか。
プラスチックごみ問題	工場建替え	世田谷清掃工場の建て替え計画が具体化してきているが、焼却炉の大規模化よりもプラスチックごみ対策にその用地を使うことを提案する。
		◆プラごみの削減について
プラスチックごみ問題	回収	プラスチック容器の回収員手渡し方式の回収量はどうか
プラスチックごみ問題	回収	回収量の動向とその要因について
プラスチックごみ問題	回収	スーパーなどの小売店でのプラ回収量は調査できるか。
		◆プラごみと清掃工場建替えについて
プラスチックごみ問題	削減・資源化	プラごみを始めとしたごみの削減や資源化の今後の進め方について
		◆プラスチックの資源循環について
プラスチックごみ問題	官民連携	新法制定に伴い、官民連携による取り組み方針を問う。
		◆CO2ゼロの目標に向けて
ZEH※1	環境配慮型住宅リノベーション	省エネルギーリノベーションの補助金は好評で、補正対応しているが、区内事業者が同じ方向を向いて進むには有効だと考える。令和4年度の当初予算には必要な予算をつけて推進すべきと考えるが認識をうかがう。
		◆温暖化対策について
ZEH	環境配慮型住宅リノベーション	区では、太陽光発電システムの設置を含む環境配慮型住宅リノベーション推進事業の所管が今年度から都市整備部から環境政策部に移ったが、CO2排出実質ゼロに向けた目標を聞く。
		◆CO2削減へ向けた住宅等に関する補助事業の現状と今後の方向性について
ZEH	環境配慮型住宅リノベーション	環境配慮型住宅リノベーション推進事業の現状と今後の方向性について
ZEH	環境配慮型住宅リノベーション	省エネ住宅に関する補助事業の現状と今後の方向性について
		◆環境リノベーションのレベルアップと区内事業者の育成について
ZEH	環境配慮型住宅リノベーション	環境リノベーションをこれまで進めてきたが、今年取り組んだことと、次年度に向けてどう取り組んでいくのか見解を問う。
ZEH	環境配慮型住宅リノベーション	建設業への支援という点、区内事業者(主に工務店)の育成という点からどう取り組んでいくのか見解を問う。
		◆建築の断熱性能の向上と断熱材利用の促進について
ZEH・ZEB※2	断熱	建築の断熱性能の向上と断熱材利用の促進について
		◆国土交通省の居心地がよく歩きたくなる街づくりの推進について
移動・交通	街づくり	「居心地がよく歩きたくなるまちなか」として、まちなかの回遊性や賑わいの向上、人の交流、健康増進など、新たな創造に繋がる「ウォーカブル推進都市」の主旨に区は賛同しているが、どのように歩きたくなる街づくりを進めていくのか伺う。
		◆これからの道路計画について
移動・交通	街づくり	人口減少が見込まれるなか、自動車中心の社会ではなくなる。都市計画道路も「ひと」中心の豊かな生活空間を実現する視点で、今後は計画され、また、事業化されるべき。
		◆気候変動と区の温暖化防止対策について(再掲)
移動・交通	公共交通	公共交通の整備と利用促進について気候危機の視点からの展開すべき、区の見解を問う。
移動・交通	自転車	都市部の自転車利用の視点から、自転車走行レーンの整備と利用促進について、気候危機の視点からの展開すべき、区の見解を問う。
		◆電動アシスト自転車の購入費助成をしたことは評価する。引き続き、事業者の声を聞いて、支援をしてほしい。
移動・交通	自転車	各種補助事業を申請する際、添付資料を含めて中小の事業所には負担が多い。可能な限り簡素化に努めてほしい。
移動・交通	自転車	社会的検査を含めて、行政で実施している各種事業を知らない事業所が多い。また、FAXで周知されることが多いがFAXは見ないという事業者の声もある。周知の工夫に努めてほしい。
		◆防災関連について
電気自動車	庁有車	庁有車をすべて電気自動車とし、避難所で活用できるようにせよ。
		◆公用車のEV化を進めるべきと考えるが、区の見解を問う。
		◆区営住宅や区立公園の駐車場のさらなる活用について
電気自動車	充電設備	区営住宅や区立公園の駐車場にEV(電気自動車)の充電施設を設置するなど、さらなる活用をした方が良いと考えるが区はどう考えるか。
電気自動車	充電設備	区立公園では二子玉川公園に充電器があるが、公園駐車場に電気自動車の充電施設をもっと設置していくべき。
		◆公共施設の駐車場へのEV充電器の設置
電気自動車	充電設備	電気自動車の普及に向けて、公共施設の駐車場へのEV充電設備も含めどう向き合っていくのか。電力供給量の可能性も含めて見解を問う。
		◆カーボンニュートラルの取組みについて
電気自動車	充電設備	自動車のゼロエミ化に向けた取り組み。EV充電設備の区立公園、区営住宅へ設置すべき。
		◆水素自動車について
電気自動車	水素自動車	自動車市場を見ると既にEVシフトは起きており時間の問題。FCVは不要では、見解を問う。
		◆温暖化対策について
再生可能エネルギー	目標、自治体間連携	国の2030年度の再生可能エネルギー発電量の割合の目標に対し、世田谷区の目標を尋ねる。また、今後、さらなる再生可能エネルギー導入拡大に向けた自治体間連携が必要と考えるか見解を問う。
		◆新潟県津南町との連携協定について
再生可能エネルギー	自治体間連携	連携協定により区内事業者が電力を切り替えた際、経済的メリットを得るべきと考えるがいかか(電気料金が安価になるまたは、津南町の特産品を受領できる等インセンティブが必要と考える)
		◆自然エネルギーの自治体間連携について
再生可能エネルギー	自治体間連携	ここでいう「関係所管との連携」とは何を指し、どのような展開に繋げようとしているのか?
再生可能エネルギー	自治体間連携	脱炭素経営あるいはSDGsといったテーマに対する区内事業者の温度感や業種別の濃淡といった情報を環境セクションと共有し、経済的メリットの創出につなげていくべき。見解を問う。
		◆区内事業者への再生可能エネルギー取組みについて
再生可能エネルギー	区内事業者	せたがや版RE100賛同者数
再生可能エネルギー	区内事業者	事業者向けに再エネ啓発方法は
再生可能エネルギー	区内事業者	11月のRE100ミーティングの内容と工夫した点
		◆気候非常事態と災害対策、水と緑の保全の一体的推進を
みどり	グリーンインフラ	来年度以降も、グリーンインフラ学校の様な啓発活動を続け、区民の環境問題への理解を高め行動を促す取り組みをハードソフトの両面から一体となって、着実に続けることを求める。区の見解を問う。

大項目	小項目	区議会議員からの質問要旨
		◆グリーンインフラライブラリーについて
みどり	グリーンインフラ	区民がグリーンインフラの取り組みを実感できる効果の見える化や、外国の方に紹介できる英字版を作成するなど、グリーンインフラライブラリーのアップデートを求める。
		◆世田谷区未来つながるプランについて
みどり	グリーンリカバリー	区はグリーンリカバリーなど6つの視点で、次の何に「つなげよう」としているのか？また、グリーンリカバリーを実現するためのプロセスについて見解を伺う。
		◆グリーンリカバリ(自然エネルギー含む)について
みどり	グリーンリカバリー	グリーンリカバリ(自然エネルギー含む)について
		◆みどり33の推進について
みどり	みどり33	街路樹など地域のシンボルとなっている木が切られることがある。事情はあるだろうが、補植をするなどみどりを減らさないよう取り組むべき。区のことを聞く。
		◆みどり率について
みどり	みどり33	区が掲げるみどり33の目標の意義は何か。
みどり	グリーンインフラ	みどり率に加えて、グリーンインフラなどの新たな考え方を取り入れた指標を導入し、新たな施策を考えていくべきと考える。区の見解は。
		◆脱炭素社会の実現に向けた区の取り組みについて
みどり	森林保全	世田谷区では、30年ほど前から、川場村の森林保全に取り組んでいると聞いているが、今後どのようにして取り組んでいくのか。
		◆豪雨対策
災害対策	豪雨対策	改定作業中の豪雨対策行動計画では、どのような点が改定されるのか伺う。
災害対策	豪雨対策	下水道分流地域の雨水管の整備の進捗と今後について伺う。
災害対策	豪雨対策	雨水貯留浸透施設等による流域対策量、土のうステーションの設置数について、進捗と今後の予定について伺う。
災害対策	豪雨対策	玉川、野毛地区の豪雨対策をどのように行っていくのか。区の見解を伺う。
災害対策	豪雨対策	二子玉川無堤防地域の堤防整備の進捗状況と今後について伺う。
		◆豪雨対策について
災害対策	豪雨対策	玉川樋管付近の谷沢川の映像や水位の情報を、区のホームページから区民も見られるようにできないか。
災害対策	豪雨対策	玉川・野毛地区の豪雨対策について
災害対策	豪雨対策	玉川・野毛地区について、雨水貯留浸透施設整備以外の新たな対策はあるのか。
災害対策	豪雨対策	都の対策強化地区に追加されたことで、さらなる改善策が期待できるのか、区の見解を伺う。
災害対策	豪雨対策	流域対策推進地区に入っていない場合でも、玉川野毛町公園を整備する際は、雨水貯留・浸透施設は整備されるのか確認する。
災害対策	豪雨対策	現在事業中の谷沢川分水路の地下トンネルを、玉堤地区の一時貯留施設としても活用できないか。
災害対策	豪雨対策	昨年度、世田谷区建築物浸水予防対策要綱が改正され、届出の対象がハザードマップのエリア内での建築行為に拡充されたが、実効性のある浸水対策がされているのか。
		◆フェーズフリーについて
避難所	電源確保	今後の区政運営や施設整備にも「フェーズフリー」の考え方を取り込むことにより、持続可能な財政運営にも大きく影響してくると思うが、政策経営部の見解を伺う。
避難所	電源確保	避難所となる体育館照明のフェーズフリー
避難所	電源確保	避難所となる体育館の照明については早急にLED化して、区独自でも再生エネルギーと蓄電池のセットで整備することで普段から創エネと省エネを実現して災害時にもそのまま活用できるフェーズフリーの避難所とすることはできないか。
避難所	電源確保	30kw発電し全部使えているのか、体育館の一例だけでも、十分なので考えられないか。
		◆災害対策について
避難所	電源確保	福祉避難所への電源配備の状況を問う。
		◆再生エネルギーを活用した避難所整備について
避難所	電源確保	太陽光パネルを避難所として活用する学校にもっと設置すべきである。現在の進捗状況と今後の展望を問う。
避難所	電源確保	いつ頃までにできるか。
避難所	電源確保	フェーズフリーの避難所として、再エネと蓄電池は全ての所には付かない。残ってしまう学校に対してどう考えるか。
		◆学校施設のZEBの推進について
ZEB	学校施設	世田谷区気候非常事態宣言を踏まえ、文教領域として貢献できることは。
ZEB	学校施設	学校施設のZEBをどう考えているか。
ZEB	学校施設	ZEBを目指すにはコストが課題となるため、他自治体の先進事例も参考にシミュレーションすべきと考える。実現に向けて具体的にどのように取り組むのか。
		◆脱炭素社会の実現に向けた区の取り組みについて(再掲)
ZEB	学校施設	再生可能エネルギーを活用した電力の供給を教育施設に導入すべきと思うが、電力協定の評価と今後の進め方について見解を伺う。
		◆世田谷区未来つながるプランについて
ZEB	公共施設	公共施設の高断熱性能など省エネ対応を「つながるプラン」に明記すること。また、今般一部改訂としているが、「公共施設総合管理計画」にも盛り込む必要がある。
		◆公共建築物の環境性能の向上について
ZEB	公共施設	区公共施設の太陽光発電設備の設置基準の見直しについて(最大値30kw)
ZEB	公共施設	既存公共施設への太陽光発電設備の追加設置について(屋根貸し、クラウドファンディングの活用など、様々な手法で)
ZEB	公共施設	既存公共施設について、改修工事等による断熱性能の向上に向けた取り組み(遮熱性塗装、断熱防水など)
		◆CO2ゼロの目標に向けて(再掲)
ZEB	公共施設	区内のCO2削減のため、公共施設の省エネ推進の基準(例えば断熱窓の採用)を決めるべきではないか。認識をうかがう。
		◆CO2削減へ向けた住宅等に関する補助事業の現状と今後の方向性について
ZEB	学校施設	学校施設における「ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の推進」に関する区の見解について
ZEB	学校施設	エコスクールの効果について
		◆脱炭素社会の実現に向けた区の取り組みについて(再掲)
脱炭素・計画	脱炭素・計画	計画改定までにできることから取り組むと聞いたが、これまでどのような取り組みを進めているのか。
		◆CO2ゼロの目標に向けて
脱炭素・計画	脱炭素・計画	国の2050年までにCO2ゼロの目標に向けて、区の2030年までの目標はその達成を見据えてものになる必要があるのではないか。
脱炭素・計画	脱炭素・計画	脱炭素社会の実現に向けては、全庁的にどの分野でも取り組む必要があると思うがその認識をうかがう。
		◆エンカル消費等について
環境全般	エンカル消費	エンカル消費の啓発についてどのように取り組みを進めていくのか
		◆エンカル消費等について(再掲)
環境全般	ごみ	ごみが出ない生活への取組みについて

大項目	小項目	区議会議員からの質問要旨
環境全般	ごみ	粗大ごみのリユースに関する実証実験について問う
		◆粗大ごみのリユースを促進するための実証実験について
環境全般	ごみ	リユース品の譲渡の際に生じるトラブルについて
		◆ごみ収集について
環境全般	ごみ	粗大ごみのリユースを促進するための実証実験について
環境全般	ごみ	戸別収集についてどう考えるか
		◆分別の徹底について
環境全般	ごみ	分別の徹底について
環境全般	ごみ	異物の混入などで清掃工場が停止するのは、具体的にどんなときか。
		◆エンカル消費等について(再掲)
環境全般	エコフレンドリーショップ	エコフレンドリーショップの取組みについて問う
		◆せたがやエコフレンドリーショップの取組みについて問う
環境全般	エコフレンドリーショップ	取組み内容と実績について
環境全般	エコフレンドリーショップ	登録店舗の目標数と今後の新規獲得について
環境全般	エコフレンドリーショップ	大学生の活用と「世田谷区2R推進会議」について
環境全般	エコフレンドリーショップ	世田谷区2R推進会議はどのような団体が参加し、どのような取り組みを行っているのか
		◆環境配慮制度について
環境全般	環境配慮制度	環境配慮制度における評価算定書の評価項目を時代に合わせるべきと考えるが、見解を問う。
		◆地区計画における環境対策について
環境全般	地区計画	気候非常事態宣言を受けて、都市整備所管として、今後どうコミットするのか。
環境全般	地区計画	2050年までに二酸化炭素排出量をネットゼロを目標としていくためには、環境の視点で地区計画にも取り入れるべきではないか。
		◆持続可能な区政運営について
環境全般	全庁連携	区の基本的な政策の方向性として、気候変動、ジェンダー主流化、インクルーシブな視点を実施計画にしっかり位置付け取り組むことを求める。見解を聞く。
		◆グリーンリカバリ(自然エネルギー含む)について(再掲)
環境全般	全庁連携	すべての政策において、地球温暖化対策といった環境の視点、あるいは持続可能性といった視点は欠かせない。つながるプランによりこのような複合的政策への取組みも描いてほしい。
		◆ゼロカーボンシティ実現に向けた全庁横断的な環境政策について
環境全般	全庁連携	今後の環境審議会の傍聴システム構築について
		◆気候危機対策会議について
環境全般	気候危機対策会議	会議の位置づけ(役割)について
環境全般	気候危機対策会議	会議のメンバー構成について
環境全般	気候危機対策会議	会議が与える所管課への影響について

※1 ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)

室内外の環境品質を低下させることなく、再生可能エネルギーの利用や高い断熱性能と高効率設備による可能な限りの省エネルギー化により、年間での一次エネルギー消費量の収支がゼロ、又は概ねゼロとなる住宅

※2 ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

室内外の環境品質を低下させることなく、高い断熱性能と高効率設備による可能な限りの省エネルギー化と再生可能エネルギーの導入により、年間での一次エネルギー消費量が正味でゼロまたは概ねゼロとなるビルのことさらに、Nearly ZEB、ZEB Ready、ZEB Orientedを含めた4段階の区分がある。